

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102582		
法人名	医療法人社団 稲葉会		
事業所名	芥見グループホーム		
所在地	岐阜県岐阜市岩田東3丁目277-1		
自己評価作成日	平成27年8月28日	評価結果市町村受理日	平成27年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102582-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102582-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・平屋造りの2ユニットで渡り廊下でつながっており、自由に行き来できるゆったりとした雰囲気のあるホームです。  
 ・母体の芥見診療所は多くの診療科目と入院病床を持っており医療との連携が整っています  
 ・デイ利用、外出利用の希望者は芥見診療所に併設のデイサービスを週1回～2回利用し、入居前からの馴染みの関係の維持や、外出支援、大浴場での入浴など、楽しんで頂けるように心掛けています。  
 ・地域の行事に積極的に参加したり、ホームでの夏祭りには、住民の方々に参加をして頂いたり、交流ができるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して12年目となるホームは、入院病床を持つ診療所が母体であるため、医療と介護の連携が図りやすく、緊急時も迅速な対応で支援している。利用者は、診療所に併設しているデイサービスで、地域の人との交流を楽しんでいる。また、ホームは平屋作りの構造で、ユニットごとに玄関が設けられており、家族や地域の人々が、気楽に訪問できる雰囲気がある。管理者や職員は、定期的に外部講師の研修で、より良いケアの姿勢や、コミュニケーション技術を学び、質の向上に向けたケアを実践している。職員が働きやすい環境が整っており、定着率も高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様、来所された方々に対し優しい気持ちを忘れず笑顔で接するようにしています。地域との交流ができる機会を増やしながら利用者様のニーズに添ったサービスができるように心掛けています。	理念は、わかりやすい言葉で作られており、玄関、事務所に掲示され、職員は常に理念を意識し、日々のケアの中で実践している。また、毎月、理念に沿った目標を掲げ、さらにその内容を深め、職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々と挨拶やお話をする中で馴染みのある関係づくりに努めており、畑でとれた野菜を頂く事もあります。また、夏祭りや花火大会などに声をかけ、地域の方との交流をしています。	自治会に加入し、回覧を通じて、地域行事の情報を得たり、ホームの行事に住民参加を呼び掛け、地域の人や子供たちとの交流を図っている。また、近所の農家から野菜の差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	予約のお問い合わせ時や、ホームの見学にみえた方々等、日常生活での対応を相談される時は今までの経験を活かし、いろいろなアドバイスを伝えたり、介護者の疲労が軽減できるような支援をしています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で参加者の方々の提案等を、行事やサービス向上に取り入れられるよう努めています。会議での意見が少なく、家族様にアンケートを行いました。	運営推進会議は2か月ごとに開催され、介護保険課、地域包括支援センター、民生委員、家族の参加があり、ホームの行事や活動状況の報告を行って。家族からの提案を、外出先の計画に活かした事例もある。	会議は定期的に行われているが、地域関係者等の幅広い参加メンバーが得られていない。開催日時やテーマの設定などを検討し、さらに有意義な会議になるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスについての問題や相談したい事等は常時連絡をし助言を頂きながら、取り組んでいます。運営推進会議に参加された場合はケアや対応策等の相談もしています。	開設当初から、行政との関係は密に行っている。入居者についての相談は、随時行っており、制度の改正や運営に関しても詳細に助言、指導を仰ぎ、運営に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加し、会議等で伝達する事で拘束のないケアを改めて認識し、日々のケアに取り組んでいます。玄関の鍵は防犯のため夜間のみ施錠し、日中は自由に入出りできるよう開放し安全な対応で見守りをしています。	日中、玄関は施錠せず、常に利用者を見守る体制である。身体拘束に関する外部研修を受講後、全職員による内部研修で、拘束をしないケアを徹底し、言葉による拘束の弊害についても、職員一人ひとりが充分認識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部の研修で学ぶ機会を作り虐待の理解や把握、人権の尊重を全職員が把握できるように会議等で伝達しています。また、身体的のみではなく精神的虐待につながるような言葉等も注意しながらケアに取り組んでいます。	/	/

岐阜県 芥見グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	外部研修で学ぶ機会を作り伝達する事で職員の理解や知識を身につけています。身元保証制度を利用されている方に関しては関係者と話し合いをしながら支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づき、利用者様、家族様に詳しく説明をし疑問等に関し十分な説明、対応をすることで御理解を頂き同意を得ています。また、入居後も疑問などあった場合にはその都度、説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見等、サービス向上につながるように努力しています。電話やEメール等で連絡を取り話しやすい環境、雰囲気作り、家族様の面会時に要望等を聞き運営に反映させています。	訪問時の会話、運営推進会議での意見やメールなどを通じて、利用者と家族の思いや意向を把握している。「リハビリをしたい」という本人、家族の要望を受け、早速、実現に向けて取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員間での意見交換がしやすいような業務の流れを配慮し、話しやすい環境作りを心掛けています。意見や提案がある場合は随時報告があり会議等で検討し個々の意見や思いを反映させています。	管理者は、常に、職員が意見を出しやすいような雰囲気づくりをし、接している。職員の意見はリーダー会議、各棟会議、全体会議等に挙げ、職員全員で検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の事情を配慮し働きやすい労働環境(残業時間の軽減、身体負担の軽減)を確保できるように工夫しています。また、得意な事、苦手な事を把握しその職員に合った係を決める等、意欲向上に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の立場や必要性に適した外部研修、又は内部研修に積極的に参加し、会議や書面等で他職員への伝達、知識の共有を行い質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や地域の会議等に参加し、情報収集や意見交換を行っています。また、他事業所へ利用者様の紹介や訪問、運営に関しての相談もしながらサービスへつながるような取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム内の見学や事前面接時に緊張を和らげる雰囲気作りを心掛け相談や要望を聞きながら、信頼関係が得られるように取り組んでいます。今までの生活環境を大切にしながら安心した生活が送れるように支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様に家族様からの要望や不安な事等の相談を受け、安心感を与えられる対応を心掛け信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	予約時や、事前面接時に相談を受ける中で、その方に適したサービスが提供できるように内容を話し合い、支援を検討しています。法人内のデイサービスを利用してみえた方等、入居後も利用をして頂き、今までの関係の継続を支援をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、掃除、その他、個々の利用者様の得意分野とする事を皆で学び、共存し合う事で一体化を図り、常に感謝の気持ちや敬意を忘れず、支えあいながら生活できる関係作りを心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの生活に慣れない方は家族様に面会や電話の協力をして頂き、安心した生活が送れるように支援しています。また、行事に参加して頂き、家族様との絆を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた近隣の方や友人など面会にみえています。地域行事(敬老会)などの参加、同法人のデイサービスの利用、外出、外泊の機会が持てるよう家族の方に協力して頂き、馴染みの方との交流が図れるように支援しています。	家族の協力で、以前の住まいがあった地域で行われる敬老会に参加し、馴染みの人と交流している。母体法人のデイサービスに出掛け、利用している友人や知人と交流も、楽しみになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士ができない事を助け合いながら生活しています。支え合うことで信頼関係を築き、毎日笑顔で過ごして頂けるような生活支援を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族様の相談等に応じ、その都度、対応しながら、お付き合いを大切にしています。馴染みや信頼関係が途切れないように心掛けています。入居希望者の方が紹介を受けたと予約をして頂ける時もあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を支援していく中で、思いや意向を汲み取り、会話等から得た情報を職員間で共有する事で人らしい暮らしを確保しています。また、その都度本人が意思決定しやすい環境作りを心掛けています。	日常のケアの場面で、利用者と交わす会話や、家族との話し合いの中での情報を拾い上げ、利用者の思いを把握している。全職員間で情報を共有し、統一したケアを行うことで、利用者との信頼関係を深めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、家族様からの生活歴や性格などの情報を取り入れ、全職員が把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を記録に残しサービスの経過等、全職員が利用者様に対して同じ対応ができるように努めています。また、利用者様の心身状態を把握し、個々に合った対応を心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族様の思いや希望を含め、会議等で話し合いをして、より良いサービスが提供できるように介護計画を作成しています。身体状況や認知症状の変化がある場合は、その都度話し合いをしながら見直しをしています。	担当者が、利用者、家族の思いや意向を明確にし、担当者会議で、その思いや意向を反映した介護計画を作成している。また、支援が経過する中で、変化が生じた場合は、プランを見直すなど柔軟に対応を行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個々のケアプラン経過記録、生活記録などを記入し職員間で情報を共有する事で状態把握に努めています。また、記録を参考にすると共に、会議で話し合いの場を設け、介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族様の希望に応じて、買物、受診、法人内のデイサービス利用などの支援をしています。また、気分転換を図る為、外出や散歩等に出掛け柔軟な支援を心掛けています。		

岐阜県 芥見グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入しており、校下内で行われるお神輿の見学、近くのスーパーへ買物、ホームの近くを散歩し近所の方とのふれあいを心掛けています。ホーム行事(夏祭り)の開催を通知し参加して頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、家族様の希望に応じてかかりつけ医、専門医などの受診、必要に応じて往診もあり、安心して頂けるような支援に努めています。	利用者、家族に希望のかかりつけ医を選択できることを説明している。現在は、全員が母体法人診療所をかかりつけ医としているが、それぞれの主治医による緊急時の対応もスムーズに行われ、利用者、家族の安心に繋がっている。訪問歯科の協力体制も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に主治医、看護師と連絡を取り合い、適切な医療や看護が受けられるような体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には主治医、看護師との情報交換を密にし、本人様、家族様が安心していただけるような対応を心掛けています。また、早期退院ができるように医療機関との連携を図り、退院後の対応も指示を受けながら行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様や家族様に重度化や終末期について主治医との話し合う時間を作り、説明をして同意を得ています。	入居時に、重度化や終末期に向けたホームの方針を説明している。重度化や終末期に関しては、かかりつけ医からの指導により、家族に同意書を依頼し、介護と医療の連携を密にした支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDが設置してあり、使用方法の勉強会を行っています。急変時、事故発生時は速やかに主治医へ連絡し指示を受けながら対応しています。また、その後も全職員に対応方法を周知徹底しケアをしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回実施し、消防署の方に来て頂いて指導を受けており、マニュアル作成、物品などの準備をして災害に備えています。また、地域の防災訓練にも参加しています。ハザードマップを玄関に設置しいつでも見られるようにしています。	消防計画書が整備され、職員の役割分担も明確である。年2回の災害訓練は、消防署立ち合いで行われ、避難訓練は地域の住民、企業の協力を得ている。地域の防災訓練にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格に添った声かけや対応を心掛け尊重する心を大切にしています。利用者様本意の支援に取り組みプライバシーの確保に努めています。	外部の講師を招いて、コミュニケーション研修を、職員全員が受けている。利用者に対してのコミュニケーション方法を学び、技術の習得を重ね、利用者本位の対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の変化に気付けるように日頃からコミュニケーションを大切に状態の把握に努めています。信頼関係を築いていく事で希望や思いを伝えやすい環境づくりを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や心情に合わせた対応を心掛け、その方にあった生活が送れるように支援しています。毎日が楽しく笑顔で過ごして頂けるように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服選びや外出時の洋服選び、お化粧等、自己決定ができるように働きかけています。買い物では、個々に好みの洋服などを選び、楽しみを持って頂きながらその人らしさを大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けをして頂いてます。また、ホームの畑で育てた野菜と一緒に収穫し、献立に取り入れ味付けや調理方法など教えて頂きながら食事が楽しみになるよう支援しています。	ユニットごとに食事作りが行われ、利用者は準備や後片付けなど手伝っている。テーブルには季節の花を飾り、職員は食事介助をしながら、利用者と同じものを食べ、さりげなく見守り、その人にあたりリズムで食事支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は記録に残し、食事、水分摂取が少ない場合は医療機関に連絡して指示を受け対応しています。個々に合わせた量、調理方法等を工夫しながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けをし、できないところは援助しています。また、義歯は毎晩消毒し、歯みがきが困難な方は舌用のスポンジを使用して口腔ケアをしています。		

岐阜県 芥見グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、トイレ誘導の声掛けを行っています。できる限りトイレでの排泄を促し、自立に向けた排泄の支援を行っています。	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンに合わせて、さりげなく声をかけ、トイレへ誘導している。また、利用者の仕草を観察し、自主性も大切にして見守りながら、排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中で運動や散歩など働きかけています。食事のメニューには食物繊維、乳製品等を使用したり水分をなるべく摂って頂けるように声かけをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の体調、衛生状態等に合わせいつでもゆっくり入浴して頂けるように支援しています。週に1～2度、法人内のデイサービスにて大きい浴室でゆったりと入浴をして頂いています。	入浴は、体調や希望に合わせていつでも可能である。利用者の身体機能の低下に伴い、週1～2回は、全員が母体法人デイサービスの入浴設備を利用し、大きな浴槽で、ゆったりと入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターン、生活習慣を把握し、眠れない方は、安心して頂けるような、声かけをして対応しています。また、様子観察を十分に行い状況に応じ休息できるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員がいつでも薬の内容を確認できるようにしています。誤薬飲み忘れを防ぐ為、常時職員2人にて確認を行っています。状態の変化があった場合は、主治医に報告し対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や役割を見つけその人らしい生活が送れるよう支援しています。また、季節の行事等を行い季節感を味わって頂けるような計画を実行しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や散歩、法人内のデイサービスなどに出かけられるよう支援しています。希望に添って外出できない時もあり、そのような場合には日にちを決めて外出できるようにしています。また、家族様の協力も得て外出を楽しんでいます。	地域の喫茶店へ職員と出掛けたり、家族と外食を楽しむ利用者もいる。また、同法人のデイサービスへ、昼食と入浴を兼ねて車で送迎を行い、利用者も、ホーム以外の人との交流を楽しみにしている。年間行事は、家族の協力を得て、出かけている。	

岐阜県 芥見グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方は、ホームで管理していますが、現金を所持せず不安を感じる方に対しては家族様と相談して本人様管理をして頂いています。買物では一緒に支払いを行い、安心される現金管理に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様より希望があった場合、家族様に電話をかける援助を行っています。電話の際は、本人様のペースでゆっくりと話をして頂ける空間作りに配慮しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室にはソファにてくつろげるスペース、椅子には個々のクッション等を置き、過ごしやすい空間づくりに配慮しています。テーブル等には季節感を味わって頂けるように季節の花を飾っています。また、各棟を自由に行き来できる様な雰囲気作りも行っています。	リビングにはソファが置かれ、利用者同士がおしゃべりしたり、テレビを観るなど、ゆったりと過ごせる空間がある。また、ユニット間をつなぐ廊下を、自由に行き来している。除湿兼空気清浄機や消臭効果のある光触媒の鉢植えを置き、室内環境配慮もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士が近くの席で座れるよう配慮しており、会話やレクリエーションを楽しんだり一緒に洗濯たたみなどしてみえます。また、雑誌や新聞を見たり等、個々のペースで過ごせるような環境作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を使用してみえる方や、家族様や昔の写真を飾ってみえる方等、本人らしい快適な空間の中で過ごして頂けるように心掛けています。身体状況に応じて、その都度、本人様、家族様と相談しながら配置替えをしています。	居室の出入り口には、利用者の好みに合わせた暖簾がかけられ、訪問した園児の手作りの作品が、ドアノブにかけてある。居室には使い慣れた家具や写真が飾られ、居心地よい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険の無いよう家具の配置を工夫し身体状況に応じて安全に移動ができるように配慮しています。また、居室には暖簾をかけ他の部屋との区別がすぐに見えるようにしてあり、安心して生活が送れるように工夫をしています。		